

告辞

東京農工大学を卒業される皆さん、また本学大学院の課程を修了される皆さん、誠におめでとうございます。本学教職員を代表し、心よりお祝いを申し上げます。本学で過ごした数年間において、皆さんは楽しいことや辛いこと、さまざまな経験をしてきたと思います。本日は皆さんそれぞれ違う理由で、この晴れの舞台に臨んでいと思います。この日を迎えるまで、皆さんのキャンパスライフでは、楽しいこと、思い出になるようなことなど沢山あったことでしょう。一方、研究を進める上で想定外の失敗や、挫折もあったことでしょう。様々な経験をし、困難を乗り越えて皆さんは逞しく成長してきたと思います。さらに高い目標に向かって、いち早く次のステップに上がる人もいるでしょう。9月卒業・修了というのは、春とは違った達成感があることでしょう。本日を迎えることができたことは皆さんのたゆまない努力の賜物です。しかし、これまでやってこられたのは、皆さんだけの力ではありません。皆さんが学業に励んできた間、常に皆さんを優しく見守り、支援してくれたご家族、友人その他多くの方々のサポートもあったと思います。皆さんを取り巻く応援団に感謝することを忘れないでください。

本日は、学士号取得者が工学部 5 名、修士号取得者が工学府博士前期課程 4 名、農学府修士課程 20 名、博士号取得者が工学府博士後期課程 10 名、生物システム応用科学府博士後期課程 3 名、連合農学研究科博士課程 15 名、論文博士 4 名、計 61 名が本学から巣立って行きます。これから皆さんが進む道は様々です。さらに学業を極めようとする人たちは、上の学年に進み、今まで以上に勉学に励んで下さい。社会に出る皆さんには、今までの学生生活とは大きく異なる新しい世界が待っています。これまで習得した様々な知識・経験を存分に発揮し、東京農工大学を卒業・修了したプライドを持って堂々と社会で活躍して下さい。本日の修了者の過半数は博士の学位を取得されました。学位論文をまとめるために皆さんは狭い領域だけを専門に掘り下げていただけではないでしょう。専門分野の研究の他にコミュニケーションツールや分析力、協調性、など多くのことを学んだと思います。博士學位は自分で研究全般をマネージできることを意味します。自信をもって思いっきり活躍して下さい。既に本学を巣立った多くの先輩たちも様々な方面で元気に活躍

しています。しかし、全てが順調に進むことはありません。行き詰まったり、大きな困難が降りかかってきて、不安になることもあるでしょう。しかし、皆さんは既に「世の中はすべてうまく行くわけではなく、むしろ失敗を重ねた先に成功が待っている」ことを知っています。失敗しても立ち上がり、再度チャレンジする強い心を忘れずに、失敗を楽しむくらいの気概で臨んで下さい。でも、失敗も繰り返せば心細くなることもあるでしょう。そんな時はたくさんの友人や本学の教職員に相談しに来てください。我々は皆さんを暖かく迎え、できる限りの協力をします。これが母校です。そうして困難を克服したときは、その経験を大切に、後輩が同じように悩んでいた時に、温かい手を差し伸べてやって下さい。こうして本学の卒業生同士の絆が強くなってゆくと信じています。

学士や修士課程を修了し、社会人となる皆さんは、是非博士学位を取りに戻って来て下さい。これからの社会では一次の知識量はグーグルに勝てませんが、創造する力は人間にしかないものです。リーダーに必要な博士学位を取得しようと、再び本学で学びなおす気持ちになったときは、我々は皆さんを暖かく迎えます。社会に出るまでは何が要求されているのか分からないことが多いのですが、出てからそれらを知って、学びなおしても遅くはありません。人生は長いのです。知ってはいるながら惰性で日々を過ごすよりも、一大決心をして大学院博士後期課程で自らをさらに磨き上げる選択をして下さい。そして、これからの社会をけん引するリーダーになって思う存分活躍して下さい。

本学も皆さんの母校として誇れるよう、またいつでも皆さんのお手伝いが最高の形で出来るよう、教育体制の充実は勿論のこと、様々な取り組みを推進させ、社会の役に立ち、世界に認知される実力ある大学づくりに一層の努力をまいります。

これからも同窓会活動やそれぞれの仕事を通して互いの交流が有意義に深まることを願い、そして最後にもう一度皆さんの卒業・修了を祝い、今後益々の健闘・活躍を心よりお祈りし、告辞と致します。

平成 30 年 9 月 19 日

東京農工大学長 大野 弘幸